R18
ADULT ONLY
ズボッ
足女神征服記
zwei!
脚本: cyers
作画: えぐた

ふうぅ
最近は刺激の足りなさを感じるわぁ

今日も平和な
日々を過ごす
日本。
その文明の輝きは
あまりにも凄まじいもんで、
夜中さえ照らすものである。
だが、光が眩しければ
眩しいほど、
映される影の
闇も更に濃く
なるのである。
そして、この眩しく
光る社会の裏側には
人間の暗い欲望がまんまに
解き放たれる泥沼まりが
存在する。

この名もない裏社会のナイトクラブでは
男女がお互いの生々しい性的欲望をぶつけ合い
とても野蛮な『掟』が決められている。
先に絶頂した者が『敗北者』とみなされ、相手の奴隷と化する、

そしてその閉ざされた
秘密の社会でももちろん
序列関係っていうものが
生まれて
その序列の頂点に立つ
者たちもいる。

はぁ…

ここにも
その『頂点』の中の
一人がいるのだが…

くっそ…
誰もかも
アイツのせいで
私のこと…
バカに
しやがって…
アァ～
腹立つわ…
もみ
もみ
もみ

もみ
ビュ…
ゲイ
ガガガ…
あの
ブタ野郎…
つうう
よくも私の
足を…
あんな
風に…
ぬぬぬ…
ガタ
ガタ
ガッ
このド下手くそ
どもめが！
なんなのよ、
そのマッサージ！
やるなら
ちゃんと
やりなさい、
ボケェェ！

どうせアンタラも
私のこと裏から
くすくすとバカに
してるでしょ！
ガニ…
ｷｬｲｲｯ
あぁ～もう…
どいつも
こいつも…
役に立たない
やつらばっかり…
アイツが来てから
奴隷共も身のほど
知らぬ反抗心を…

ごくっ
ごくっ
ごくっ…
ハァ…今夜はワインの味も最低だわね…
あっ…
あれ…？
ぐらっ
ぐらっ…
いきなり…
頭が…
ガッ
くらくら…
と…

ストン…
カル
フ…
ガシャーン!!

一体…
なにが…
……
……
んん…
あれ…？
私…
確か…
いきなり眠くなって…
ズサ…
こ…ここは…
どこ…？
ていうか…

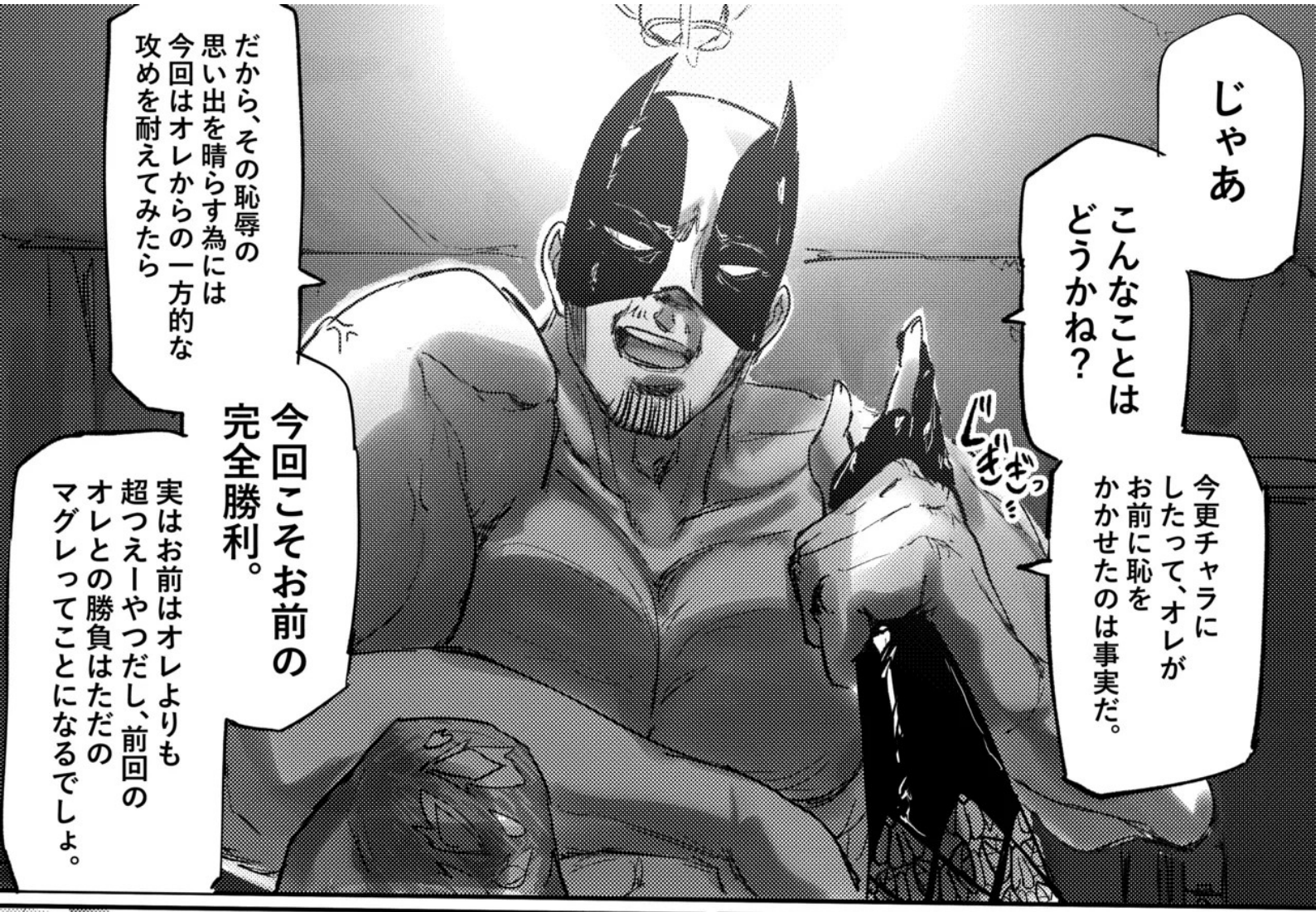
ななななっ
なにこれ!?
ぐいっ
ぐいっ
ぐいっ
ぐいっ
ぐいっ
足を…！
動けないわ！

おはようございます、
『女王』様。
ビシ
ガタ
ガタ
ガタ
あ、
アンタは…！
ニヤリ～♪
は、放しなさい！
この私を誰だと思って…！
こんな真似を…！
バタ
バタ

何をそう慌てとる。
あくまで前回の勝負でお互い同意した結果に従って、お前を奴隷にしてるだけだが？
そ、そんなバカらしいコトで…！
悪ふざけにもほどがあるわ！
おい。
舐めんな
じゃあてめぇが今まで散々コケ使ってきた男子共の事もただの悪ふざけだけなのか？
自分のことになったらすぐ「冗談です」とか言い出しタマだとは思ってなかったけどな。
でも勝負はあった以上、お前が今まで男子どもにしてきた様、
オレもオレの筋は通させていただくぜ。

ふ…
ふざけないで！
あんな勝負一回にそこまでで意味付与するんじゃないわよ！
そもそもね！
ア！
あの時は私、イってないから！
そ、それはただの…！
た、
ガク
ゲシ
お…
も…
おもらし…だったし…
もじ…
いくらなんでも何言ってんだ、私ィィィィ！
ただの…
ビクビク

……
プッ
クックク…
クスッ♪
そこまで負けを認めたくないのか？
女王なのにプライドもクソもねーすぎだろ！
や、
やかましいわよ！とにかくノーカン！
あー
そっか…まぁ…
そんな恥ずかしいことまで言うお前のとても健気な姿に免じて、
再び勝負して白黒ハッキリするに決めた。


じゃあ
こんなことは
どうかね？
今更チャラに
したって、オレが
お前に恥を
かかせたのは事実だ。
ビギビギっ
だから、その恥辱の
思い出を晴らす為には
今回はオレからの一方的な
攻めを耐えてみたら
今回こそお前の
完全勝利。
実はお前はオレよりも
超つえーやつだし、前回の
オレとの勝負はただの
マグレってことになるでしょ。

いいじゃない。
これで本当に、
白黒ハイッキリ
できるわね。

今回こそアンタに
負けることになったら…
私の完全敗北。
私も、アンタに
そんな口を
たたかれたら
大爆笑でも
してあげないと
気がすまないの。
もう意地でもアンタが
だらしないだっせー
イキ顔してるのを眺めながら
ほぉ…
本気が？
へっ…
むしろ、
本気じゃないなら
こんなおもしろい
勝負に乗れるぐらい
まであるわ。
そう…
私だって女王ってのプライドは持ってる。
こいつに負けた以来、
長い間の権力と立ち位置で
安易な生き方をしてきた
この私に
久しぶりに…
『闘志』ってものが
再び火か付いたの。
そして誰にも
言わずに私の
最側近だけに
だけ頼み、
今まで
足が削られて
消えそうになる
特訓に特訓を
重ねて来たんだわ

いいよ。
受け取ってまいるぜ。
ふん…
なにを企んでるか…解せぬやつだわ…
てっか…
ちょっと！
なにいきなり脱がすのよ！
い…
そんなにいきなり…
な…
なんなの、これ…
一体を始めようと…
ふんっ！なによしようとも今回の私は一味違うわよ…！

……
あっ、いや
今のは全然感じてないわ
姿勢がおかしいからつれんじゃってつい変な声が…
ビク
ビクッ…
ひゃあ!!
ビクッ!
ビクッ!
ビクッ!
うっ…
くっ…
ほ…ホントザコね…

こんなやつに負けてたまるか！
我慢よ！我慢ッ！
もう片方も寂しそうなので…
ほらよっと！

おお～♪
でたでた
女王様の奇麗な笑顔ッ！
アッハハハハッ
ウハハッ
ヒハフへハッ
ふ、ふっ
ふざけんなーー！
あ、そう。
そろそろ
『こいつら』も使いたいな。
えっ…
あ、アンタ…
もしかして…
そ…それで…
う、うそッ…
ちょ、ちょっと
待ちな…
さいッ…！
ほ～れ
じゃじゃーん♪

ちょ
いやぁぁぁぁあー！
うひゃひゃひゃははひゃーッ！
やっ、やめろー！
うひひひゃひゃ！
むぉっ！
むぐっ
むぐっ
ビクッ！
ビクッ！
えっ
うそ
ま…
まって…
こんな時に…
だ、ダメぇ…！
ぷしゅ…
むぐ…
ビク…
むぐ…

アハハハハハハッ！
ハァーハハハハハッ！
ちょ、や…
やめろ！
ちょっと…あはっ
休憩…！ひひっ
うーっひょ
ひょひょーぅ
うひょひょ
ひょひょ！
ほ、ホンJト
や、やめなさい！
マジで！
はははっ、
そう！
負けたことに
するわよ！
うひひっ、
負けを
認める！
きゃはははーっ！
ほ、本当に
まずい！
勝負どころじゃ
ないからぁ～！

やっ
やめてッ
お願いッ…!
お…
ああ～♪
ビク!
ビク!
ビク!
ヴッ!

も…
げ…
限界…!

ボボ…
ぶるるん…♡
あぁっ♡
畜生…！
ち…
あはは♪
こんなド派手にお漏らししちゃって、大の大人がね～
ぐぬぬ…！ アンタのこと…
死んでも…
許さない…！
絶対…
後悔させてやるわ…ッッ！

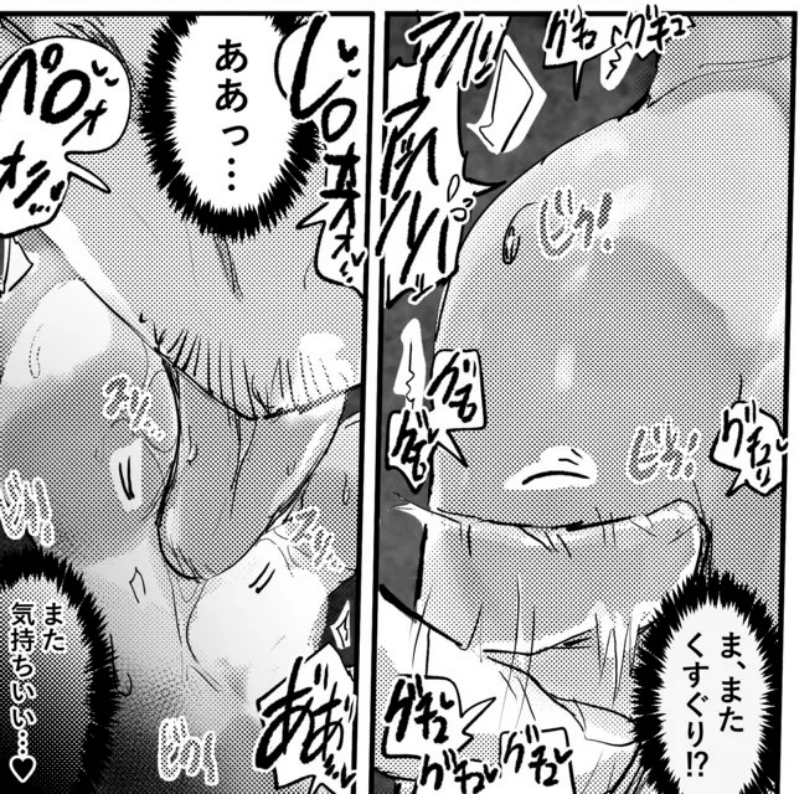
なにをいう！ 今始まったばかりなのに
自分の身の心配をするべきだろ！
まだまだイってないよね？ さっきのはあくまでお漏らしだしな♪
ガチャン…
ガチャ…
えっ
じゃあなんで…拘束を…？
どん！
ええええ！
び、びっくりしたじゃない！
い、いッいいッいいい、いッ
あ…
あわわ…
一体なにをするつもり…!?

ひ
ひやっ！
マッサージはやめろ…！
まあまあ。
奴隷どものマッサージが気に食わん様子だったから
もしかして杞憂だったかな？
ん…！
この程度で…満足するわけ…
ないでしょ…！
な…なんで…
この男のことになると…
こんなに感じやすく…！

もぞもぞ
あぁっ
な、なんで…
ただ足を触れられるだけで
ここまで…身体が熱く…
電気が通るようなゾクゾクが…
身体はこんなに素直なのに
口の方はあんまり素直じゃないみたいだね！
人はもっと素直になった方がいい時もいっぱいあるぜ♪
まぁ、だといえ誰にも初めて素直になるのは結構気が回らないもんだし、
ここはオレの方から人肌脱いでやるよ。
よし、こうすれば…どんだけ頑固なやつでも口が開けるはず…

レロオ

か…感じちゃう…

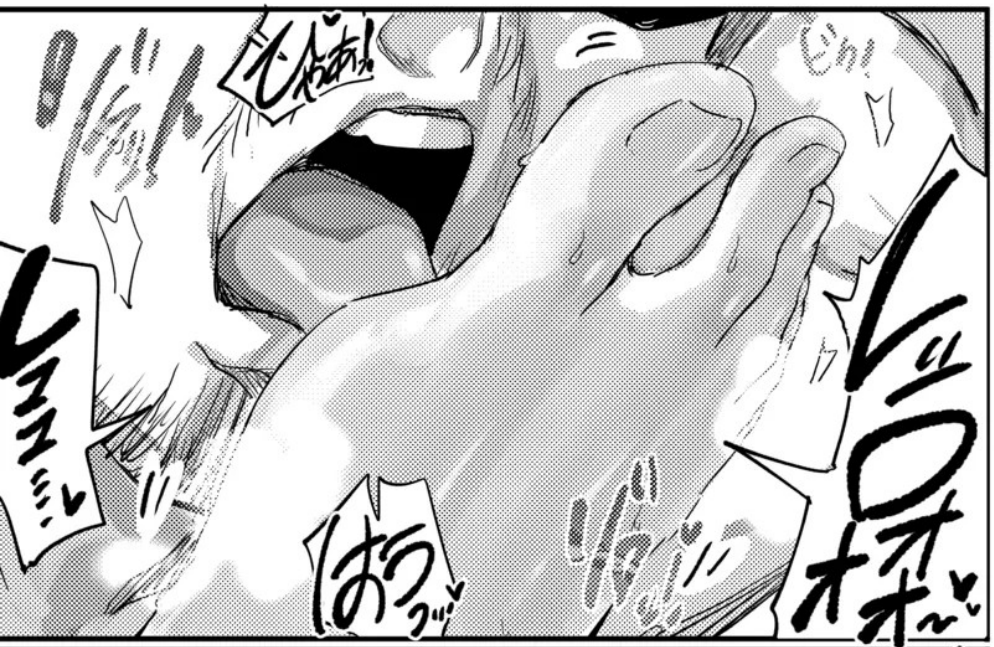

ああっ…
また気持ちいい…♡
ま、またくすぐり!?

それを繰り返すだけで10分…
はぁ…
はぁ…
な…ゲホッ！
なにしてんのよ…
イく寸前になる土丹何度もくすぐっちゃって…
新しい拷問…？
はぁ…ほぇ…
ずっとこんな無癌地獄を経験することになるなら…
は…
はやく…
頼むから…
ゲホッ！
一層…！
い…イかせて…！
おいおい。
『イかせろ』って？
お前、
それがどういう意味か分かって頼んでるわけだよなァ？
今度こそ確実に奴隷だぞ。

…と…
フーッ…
…める…
トン…
ま…
負けを…
み…
認める…
から…！
頼むから…
い…
はやく…！
は…
イかせて…
ほしいの…♡
い…っ
ビクッ
フー…
もぉ…

へっ…
最初からそうこなくっちゃ！

しゅっ


レロレロ
レロレロ
はうっ

アッハーン
つ…ついに…
ん…
今まで多くの男性と肉と肉を混ぜ合わしてきたのに…
なぜ私は…こんなにドキドキしている…
もみ
ああ…
私の裸足の隅々まで舐めまわしてるのを感じる度に…
おかしく…なる…

このべとべとでぬるぬるの濡れた舌の感触が…
足指の間まで
奥深く
もっと舐めて

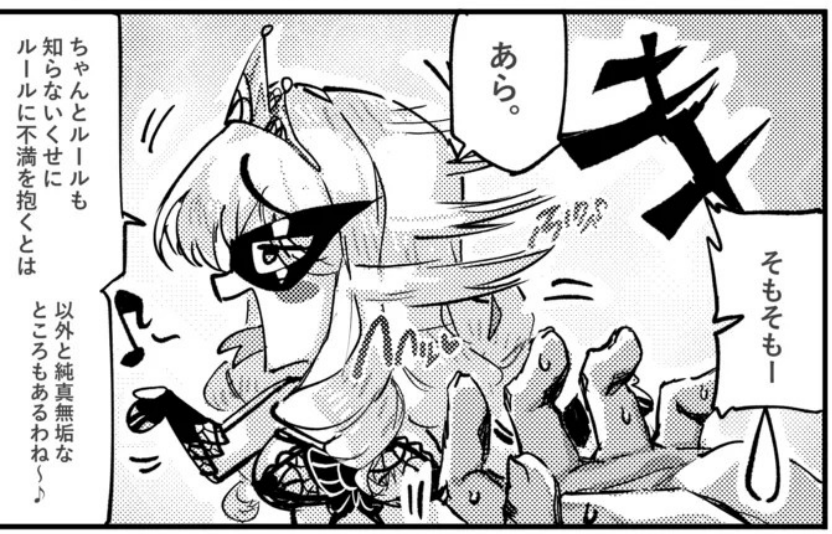
うっ…！
やっぱり…『足女神』っていうあだ名は伊達ではあるまいな…！
前回にもその片鱗を味わったが、
流石の『足サバキ』（フットジョブテクニック）だッ…！
ああぁん…♡
もっと…♡
もっと私の足を感じさせなさいぃ♡

こ、このままじゃ…
イっちまう…!
はぁ…
私の足が…♡
もう…
限界ッ…!

ほぼ同時ではあったけど、勝負的にはどうなるんかね～？
いいアクメだったわー…
……
あ～あ…もう会話成立とか無理そうやな。
まぁ。意識保ってる俺の勝利ってことにしていいかな？
や…やだ…
今まで感じたことないこの快感…
この歳になって…男の前で下品な顔しながら汚い小便をぶっ放してるのにも…
これ…絶対…癖に…なっちゃう…

まぁ。
そーいうわけでね。
明らかに共倒れなら、
女王の私に勝利の
優先権が与えられる
のが通りだけど、
今回はその頑張って
イかせようとした姿を
大目にみて特別に引き分け
ってことにしてあげるわよ♪

ふっ
ふっざけんなー！
小便の湖作りながら
気を失うまで派手に
イっといて
なぁ～にが
「特別に引き分けに
してあげる～」だッ!?


あら。
そもそもー
ちゃんとルールも
知らないくせに
ルールに不満を抱くとは
以外と純真無垢な
ところもあるわね～♪

私だったらこんな
挑戦する前にイッチバ～ン
先にルールぐらいは
事前調査するけどね～
アンタ、もしかして
規約書とか読まずに
後に自分が違反して
ドヤされたら文句言う
タイプかなぁ～？
社会生活とかあんま
経験ない甘ちゃん
だったりして～♪
クフッ
キャア～ッハハハ
ハハ、アハハハ！
かわいいわね～♪

あはははっ♪
おっほほっ…
ドスッ
ドスッ
……。

な、なんで…
また足枷を…
ほ、ほんの冗談よ…
やぁ～だ…冗談も通じないだなんて…
おほほ…
えっ…
十分後
おほっ
ほごっ
いっ
んあっ
わ、分かったから!!
も…許してぇ!!
何度もイったがらぁ…
あ

んぁあぁ♥
おひっほぉ♥♥
ほまはにゃしぃ!!
ぎゃあああ!!
たしゅけて!!
こいつらぁ!!
から外してぇー!!
誰かァァァ!!
助けて下さァーいぃ!!
終わり☆

後書

どうもみなさん、えぐたです。サニーサイドだったりエッグタルト
だったり名前変えすぎてちょと混乱するお方がいたらごめんなさいね！
それはともあれ、今回もまたこの『足女神征服記』の
依頼を任せられ、このようにまたお会いできるようになりました。

依頼主さんが前回の作品をとても気に入ってくださったので、
こんな風にまた依頼をくださり、とても光栄だと思っております。
今回の作品を作ってた時のやり取りでもとても気に入ってくだ
さって、描いた私もかなり遣り甲斐のある仕事でした。そろそろ
作品に対する強い愛着を感じてるところです。

前回に比べて腕も上がって絵柄もすこし違うような気がして、
自分の実力の発展をちゃんと見れたのがかなり嬉しかったですね。

まぁ、作品自体の話をすると、なかなか好きな作品ができてかなり
ご満足であります！実は依頼主さんは最初の一作目ではヒロイン
に対して別のデザインやキャラを想定していたようなのですが、（もっと
上品で凛々しい系を考えてたようです）こういう風に結構生意気で
小物感がすごいお嬢さんの方になって、個人的にはかなり趣味だし
（どS的な意味で）依頼主さんもかなり「こっちもいいですね～」って
なってくれて嬉しかったですね。

主人公の方は実はあんま考えたことないんですが、デザインが未だに
思うとかなり「なにこれ」って感じで好きだし、表紙の作業配信してた
時にも海外リスナーの方に『ＮＴＲバットマン』とか呼ばれてこっちも
なかなかそれなりの愛着が出始めましたねｗ

世間しらずの生意気な女王さまを筋肉バキバキの謎のマッチョーが
メス堕ちさせるっていうストーリーがかなり趣味だし、私はギャグ大好き
マンなのでエロい要素だけじゃなくて色んなおもしろ要素も思う存分
ぶち込めて描くのがかなり楽しかったり～

また今度があるかはこっちからどうこう言うべきではないのですが、
次にもこのシリーズで漫画を出すことになったらその時をすごく
お楽しみにしてるかも、してないかも？（匂わせ）

では、この漫画を楽しく読んでくださったって願いながら、
また今度～

Commissioned work
Client: cyers (Pixiv)

Pixiv: えぐた (/users/9448265)
X: えぐた (@egtamarumaru)

© 2025 えぐた All Rights Reserved

ぜっ、絶対に
許さないんだからっ！
プル
プル
プル

Pixiv：えぐた
（pixiv.net/users/9448265）
X　：@egtamarumaru

発売日 2025-09-27